

角田由紀子弁護士・講演会報告

オミクロン株の広がりによって、身近に陽性者や濃厚接触者がいる状態になり、もはや誰が感染してもおかしくない事態になりました。3回目ワクチン接種が2月になって始まり、遅きに失したというしかありません。総選挙前に政府が手を打っておけば、もっとちがう結果になったかも知れないと思うのは私だけでしょうか。



さて、オンライン併用で行った「初春のつどい & 全労連東海北陸ブロック女性交流集会」が60人ほどの参加により、大成功に終わりました。性暴力根絶のために訴訟に立ち上がった伊藤詩織さんの弁護団の一人でもある角田由紀子弁護士のお話は、日本がセクハラを根絶できない国である最大の理由がセクハラが法律で定義されていないために、男性の側に「これくらいいいだろう。」という意識がなくなるといこと、また広く社会に存在する様々な暴力と戦争と性暴力がつながっていることを明らかにしました。そのどちらもが、明治以来の「家父長制」がいまだに社会の隅々まで残存しているということが根本問題なので

す。

いくつかポイントを並べてみます。

- ・戦前から「強姦罪」の表現にあるように、性暴力は男性側の視点しかなかった。
- ・性暴力を受けるのは女性の落ち度であり、恥であった。
- ・1980年代にやっと女性側の視点で表現された「セクシャルハラスメント」の言葉ができた。
- ・セクハラは法律に定義がない。禁止もしていない。だからILO190号条約への加盟ができない。

下記は角田さんのレジメからの抜粋です。「言葉と認識」がいかに大事か！（以下点線枠内は角田さんのレジメの引用）

「強姦」と「性暴力」の違い。強姦（rape）は加害者の視点、略奪する、侵略するなどの意。「性」は女性的人格と尊厳の問題であり、これに対する暴力は人権侵害。

「性暴力」は、被害者側からみた認識。「強姦」（強制性交等罪）は、加害者である男性の視点から。

認識が変わると言葉が変わる。言葉が変わると認識が変わるとい相互作用が起きる。

角田さんは、様々なハラスメントを小分けにして「〇〇ハラスメント」とすると全てを貫いている問題が見えなくなると教えてくれました。セクハラは社会構造が生み出すもので、原因を知らずして対策は立てられない。「誰と何をどう闘うのか。」を明確にする必要があると。女性への暴力は政治の結果であるという視点も大事。明治以来の家父長制のもと、最大の暴力である戦争を通じて、日本の男性の中に浸透した暴力が敗戦によって一

掃されていないと言っています。

実際に夫が妻を殴る、父が子を殴る。これが普通だと思える感覚がなくなってしまったし、学校でも教師による体罰は普通だった。今も「ドメスティックバイオレンス」や子どもへの虐待として家庭内の暴力はなくなっていない。それどころか、コロナ禍で増えています。

2015 年の安保法制強行成立とその実施により、社会は急激に暴力肯定に傾いてきた。

はっとさせられるお話でした。

- ・ハラスメント根絶は政治を中心としてジェンダー平等を推進する中で実現する。アイスランドでは男女平等賃金の法律ができてからとても良くなった。日本の女性の賃金の低さは構造的な問題。
- ・日本は女性議員が極端に少なくいびつである。「女性のいない民主主義」岩波新書 2019
- ・「セクハラ大国日本」を終わらせるためには法的対応の仕組みの大幅な見直しが必須。

6 ILO190 号条約の批准を求める

(1) 批准の条件

ハラスメントを定義した制裁付きの禁止法が制定されていること。日本の現状では批准できない。190 号条約は、現在、国際的に最高水準のハラスメント対応法。対象事案は、「ハラスメント」定義の中に統一的に理解されている。

ハラスメントを生む土壌・社会構造が検討対象。

190 号条約の適用範囲は、広い。法的救済が求められる人がほとんどすべてカバーされている。「就活ハラスメント」なる造語は不要。

2022 年 1 月 21 日、通常国会参議院での代表質問で日本共産党・小池書記局長が、条約批准について質問した。初めて国会質問で条約批准が問われた。

岸田首相は、「条約の趣旨は妥当だが、批准は検討を要する」。

政府は条約の採択では賛成しているのに、国会で批准することに二の足を踏んでいる。完全に二枚舌です。政府により「自発的批准」は期待できないので、国民運動が必要だと角田さんは締めくくっています。# MeToo 運動、フラワーデモなどの運動だけでなく、私たち労働組合の仲間も ILO190 号条約の批准に向けた運動を地方からも起こしていきたいですね。そして、ジェンダー平等を強力に推し進めるのは政治ですから、来夏の参議院選挙で野党共闘がどれだけ盛り上げられるかが大事です。身の回りの人、職場の人たちとジェンダー平等についてたくさん語り合っていきましょう。



バリバリ現役で活躍している角田さん。お年をきいてびっくりです。

角田講演会・感想集

(1) 会場参加者の感想

①角田先生ありがとうございました。

日本の遅れは政治の遅れから来ています。それを嘆くだけでは進まないの、自分ができるところをがんばります。家庭の中でもより民主的になるように、みんなが声を出すことです。

②小さい頃から母の姿に憧れて自分もその中にずっとひたってきたところがあります。(女がやるのは当たり前と) ハラスメントの問題は本当に社会構造にあるということに目が開かれました。安保法制の後より暴力が増えたというのも、「そうか!!」としっかり考えたいと思いました。運動を進めていくことの大切さを本当に思いました。

③2015年安保法制強行成立とその実施により社会が暴力的になってきたという指摘、よく分かります。世の中が平和でなくなっていること(事件も多いこと)は、人権が守られていないということだと思います。

④生まれた時から成長していく中で当たり前のように思っていたことが、学習する事でおかしいと気づくことができる。みんなて話をして日常の中から考えていくしかない。もっと女性議員を増やす、大事です。色々な事に興味を持って生きていきたいと思ひます。

⑤ハラスメントについては、女性部や職場の中で問題に挙げられてきました。話を聞けばいくつか出てきますが、なかなか解決するまでは難しい問題で、しっかりと法律ができれば、もう少し早い解決になるのではないかと思ひます。先生の話は分かりやすく、資料もあつたので内容も理解でき良かったです。今日聞いた話を自分の職場や女性部などで話していきたいと思ひます。

⑥とても分かりやすい話でした。家父長制の考え方が暴力を生んできたのだと思ひました。弱い人が苦しむ、同じ女性であってもこうやって学んで想像力を養わないと苦しみに気づきにくいです。学べて良かった。そして、政治をかえなきゃ。

⑦ハラスメントという言葉が、よく聞かれるようになり、良くなつてきたのかという、そうではない。なぜかという、法律がないということが分かりました。法律を作る国会に、男性が多いということで、女性の意見が取り入れられないということ、なんとかできないのかと思ひました。アイスランドの話をして、そこで暮らす人は豊かで幸せなんじゃないかと思ひました。日本の中にいると気づかないことがあるということが分かりました。

⑧セクハラの話から、政治のあり方、戦争の話が大変つながっていると感じました。知ること、声に出してみる行動をしようと思ひます。

⑨今日はありがとうございました。ジェンダーと言葉は浸透してきているが、法律を作ることに力を注ぐことが大切と思ひました。これぐらいは、と思わないで、この事が大切だと思ひました。

女性政治家が増える事が大切でも、今の自民党のような党ではだめだとも思ひます。男女平等法でも何十年もかかってできない事、女性をバカにしているため、差が少なくならない、どうすればよいか?

⑩一人でも入れる労働組合(ローカルユニオン静岡)の役員をしていますが、働いていて、問題を抱えた人が労働相談をしてくる中で、この組合に入って、一人でも会社と交渉でき解決していています。ここ2, 3年女性からの相談が増えていて、内容はパワハラが圧倒的に多いので、なぜかと思っていましたが、角田先生のお話で安保法制強行してから暴力が肯定に傾いてきた…ということで、「そうか」と思いました。政治がすべての根源だから変えていくことが本当に重要だと思います。

⑪ジェンダー世界で120位とはどういう調査によるものか分からなかったが、男女不平等は生活の隅々に根付いていることをしみじみ思う。それに慣らされている自分がいる。しかし、根本は国の政治にある事が分かりました。セクシュアルハラスメントの罰則は是非と思う。

(2) チャットに書き込まれた意見と感想

⑫金融ユニオン：清見寺さんへコロナが落ち着いたら是非訪ねたいと思いました。先生の解説もわかりやすく良かったです。有難うございました。

⑬学校図書館充実の市民活動をしている者です。私たちに関わらず、子どもたちに関わる活動は、総じて女性で占められていることを残念に思うことがあります。

⑭学校を男子校女子校に全部分けてしまえばいいのじゃないかなと思います。男がいなければ、ジェンダーの不平等、女性は引っ込んでいろという空気をを刷り込まれることがないので。委員会、生徒会、部活全て女性が運営していましたから、嫌でも前が出る機会をもたされます。

⑮何故、男性保育士は増えないのでしょうか？

⑯愛労連：男性は出世しなければならぬとか刷り込まれていて、女性が主任とかになると激しい嫉妬ですごくやりづらい。しかしここを我慢しないと、いつまでたっても変わらないので刷り込みのない男性の時代がくるまで辛抱ですかね。

⑰前田さんと同じで一番印象に残ったのは、安保法制が可決された時から暴力化が、進んできているというところです。政府が公然と乱暴な行動をしている姿を見ることは、力でも何をしてもいいということ植え付けている。それは、沖縄も同じ。そして、それは、戦争の時から続いているということ。戦争への反省がなく、しかもそれに加担していた側の人たちが今なお政治を行っているという構造が変わっていかなければ。学校教育がそれを加担している。心すべきことです。

⑱金融ユニオン：先日も映画評論家の方が日本は民主主義社会でなく封建社会から抜け出せていない。家父長制も根強いとの評論に妙に納得しました。角田先生の今日のお話も通じるものがありました。でも社会はジグザクしながらもいながらも進んでいる。セクハラを認知させたのも勇気ある女性の告発からですね。世界の常識から遅れているけれど気付いた人が声を上げる。そして私たち周りは応援していく。それが大事かと思います。

⑲福井県労連：1946年女性参政権ができた時には女性議員が8.7%今9.7%、あまりにお粗末ですよ。女性のない民主主義の本、読んでみたいと思います。

⑳浜松医療センター労働組合：今日の角田先生のお話は正直目からうろこでした。

②新婦人では今「生理用品をトイレに」という運動を展開しています。「生理の貧困」から始まった運動ですが、「ジェンダー平等」の視点で「トイレトペーパーのようにトイレの個室に設置して！」と言う要請行動に変えてきました。学び続けてジェンダー平等を少しずつでも進めていきたいです。

②福井県労連：私自身も性差別に刷り込まれていた一人だと近頃何回かこのような講演を聞き思い知らされました。とても良い講演をお聞き刷りすることができてよかったです。

③浜松医療センター労働組合：政治を変えていくことから始まるのですね。

④静岡：先生、私たちにもわかる表現での講演、ありがとうございました。

⑤静岡高教組：ジェンダーギャップの低さには聞く度にガッカリさせられます。でも職場では30代の男性職員が育児休業を取り始めておりちょっとずつだけ変わりつつあるのが救いです。

⑥愛労連事務局：子育て中ですが、今学校では教師には服従した方が評価が高く、まさに「権威にひれ伏す心性」を育てていると感じています。戦後から続く流れを変え、教育制度を変えるには、「政治を変える運動を」を頑張らなければと思いました。

(3) 後から寄せられた感想

⑦岐阜から参加させていただきました古池です。例年岐阜からの参加はあまりなかったかと思いますが、テーマに興味があり参加させていただきました。ありがとうございました。男女格差やジェンダー問題は何度か聞いたことがありましたが、交通事故の過失割合と比較された話はなるほど、なっとくでした。天皇制も当たり前だと思っていたので、そこも驚きでした。民主主義を考える際の男女比率も考えさせられました。女性の問題が取り上げられない、通らないのはそう言うことか、や、若者も同じように議員が出て自分たちの課題が取り上げられればもっと政治に関心を持つ人も増えるのではと、変な方向についても考えてしまいました。私たちは、ILO批准におけた運動を大きく展開しないといけないと痛切に感じました。

⑧講演とても良かったです。これから勉強していかなくてはいけない方向が見えた気がします。紹介された本も読みたいと思っています。

⑨角田さんのお話は分かりやすく、日本にハラスメントを禁止する法律がないことやILOの条約を批准していないことなど、知らないことばかりでした。角田さんの地に足のついた強さは、納得です。

皆さんの感想を角田さんに先にメールで送ったら以下のような返信がきました。

さて、安保法制によって社会が暴力化していることのもう一つの例が以下の記事にあります。私もこの事件の原告代理人の一人として、講演の前日、東京地裁で体験しました。赤旗を取っていない人も多いでしょうから、記事の写しを添付します。強行成立させた法律は、どこまでも強行的に押し通すということでしょう。安保法制違憲訴訟は全国で22の裁判所で27件が起こされており、現在までのところ、17件が完全敗訴で、まるでコピペのように同じ理由と言葉で敗訴です。私たち、「女の会」（記事にあるように、原告121名と9名の代理人は全員女性）は他の裁判とは少し違った切り口、安保法制が与えた被害を女性の側に焦点を当て、ジェンダー平等からの批判を貫いており、政府にも裁判所にももっとも厄介だと嫌われていたようですが、ここまでやるか！です。でも、これは、私が体験したこ

